

泉州のメダカ

花崎 勝司

メダカは、ため池や水田、それにつながる水路、および河川の中・下流域の緩流部などの淡水域に生息し、日本人にとっては、食用にこそならないものの、最も身近な魚として認識されてきました。日本における本種は、大きく北日本集団と南日本集団に分けられ、後者はさらに東日本型、東瀬戸内型、そして琉球型などの 8 型に区分されています。これらは各々の地域で、長い時間を経て、現時点では見た目の違いこそないものの、独自の遺伝的特性を有した個体群として存在しているものとされています。



10 年ほど前、「日本からメダカがいなくなる!？」などの見出しでマスコミ報道され、日本に生息するメダカの現状が広く知れ渡るようになりました。そして、その現状を打開すべく、各地で様々な保全活動などが行われたようです。このような活動のなかで、とりわけ問題視されたのが「善意?」の放流とも言われる行為です。「メダカがいなければ、放流しよう」という発想のもとに、素性の知れないメダカ（どの地域・地方で採集されたものなのか不明など）を野放図に放流する行為です。上述したように、日本各地のメダカ個体群は、それぞれの特有な環境のもとで、遺伝的特性が異なり、それは極めて長い歴史的時間のなかで形成されたものと考えられています。しかしながら、彼等は異なる集団間や型間では繁殖が可能なのです。その結果として、長い年月を経て、その水域で独自の遺伝子を持ち続けていた個体群の遺伝子が、「素性不明」の放流個体との繁殖活動によって攪乱される可能性が極めて高くなるということに直結します。これを「遺伝子汚染」や「遺伝子の攪乱」と呼んでいます。

泉州地域のメダカについてはその報告や情報が極めて少ない状況にあります。筆者は 3 年ほど前から、本地域の河川魚類について、その現状を知るために調査・採集を行い、その結果の一部を報告しました。その中でメダカが確認された水域は、1980 年代の本地域での河川魚類調査報告と比較すると、より多くの地点でメダカが採集されたという結果となりました。また、筆者の上記報告には加えていない「ため池」

などでも、場所によっては普通に採集される場所も少なからずありました。さらに、昨年から定期的に行っている津田川の定点調査では、常にメダカ（成魚から稚魚まで）は採集されています。泉州在来のメダカにとってすみやすい環境が増えたためか、放流などによるものか、現段階では判断を下せるほどのデータも情報も筆者自身持ち合わせていません。さらに多くの分布調査、遺伝的解析、ならびに文献と聞き込みなどによる情報収集をすることが必要と考えています。

（はなざきかつじ：自然資料館アドバイザー）

岸和田城下町の暮らし —発掘調査にみる暮らしの中の器たち—

山岡 邦章

今、岸和田城の中には、たくさんの陶磁器が展示されています。と、書くとまるで岸和田城に代々伝わる陶磁器の名品を展示しているように見えますが、そうではありません。展示しているものは発掘調査で出土した、ほとんどが割れて、カケラになった陶磁器です。なんだガラクタかと、がっかりされそうですが、よく考えてみてください。

たとえばお城にとっても高価な陶磁器があるとします。もちろん価値のあるもので、大切にしなければいけない文化財でしょう。でも、これらの高価な陶磁器は、ある高い階級の人の歴史的遺産であって、その街の歴史をすべて映し出している訳ではないのです。当たり前ですが、歴史というものは、お殿様の歴史だけではなくて、それを支えた庶民の歴史があってはじめて成り立つものです。その視点からみれば今、岸和田城で展示している割れた壺や皿、すり鉢などの「ガラクタ」は、わたしたち庶民の暮らしぶりを雄弁に物語る最良の資料になるのです。これらの割れた陶磁器を見ていくと、豊かで面白い庶民の暮らしぶりがわかってきます。いくつかの例を紹介しましょう。



焼塩壺

焼塩壺とは、現在で言う食卓塩の容器です。江戸時代、塩は海水から作られましたが、にがりや不純物が多い粗塩でした。そこで粗塩を素焼きの壺に詰め、そのまま焼き上げることで、不純物を取り除き、焼き上げた壺のままで販売し、食卓塩にしたのです。

展示品は、胴体に刻印が押され「いつみつた 花塩屋」と記されています。泉州は焼塩壺の生産の盛んな地域で、この焼塩壺は岸和田と貝塚の境目、津田川河口の辺りで生産されました。



すり鉢

このすり鉢は、手前側が堺すり鉢、奥側二つが備前

焼すり鉢です。内面の摩滅の具合をご覧ください。備前焼すり鉢の方がひどく摩滅しています。これは焼きのやわらかさの違いではなくて、備前焼の方が高級品だから、すり目が無くなるまで使ったためです。母から娘へ代々伝わったものかもしれません。

これらの小さな皿は紅皿と漱ぎ碗と呼ばれるものです。紅皿は口紅を引く時に使う小皿、漱ぎ碗は、お歯黒を塗った後、口を漱ぐための碗です。また、入り口のエリアには「お歯黒壺」と「油壺」があります。お歯黒壺はお歯黒にする鉄漿水を作る壺、油壺は椿油などの整髪油を入れておく壺です。あとは、白粉と鏡があれば、岸和田美人のできあがりです。

この大皿は中国の明の時代の景德鎮窯のもので、当時も現在も、完全なものは非常に高価なものです。残念ながら、城下町から出土するものはカケラでしかありませんが、たとえカケラでも、出土することによって、岸和田城下にはこういった高級品を持つことができた人が暮らしていたことが窺え、町の賑わいが浮かんできます。

灯りの道具です。電気の無い時代、灯りは菜種油を灯明皿に入れてともしました。灯明皿は基本的に小皿なら何でも良いわけですが、油量が少ないために灯火時間が短くなります。これを改良したのが「ひょうそく」です。さらに長時間使えるように改良して、台の部分の部分が壺型になったものもあります。灯りが長時間ともるようになり、それを囲んで話がはずんだことでしょう。

この瓶は何に使ったものでしょうか。年配の方ならおわかりでしょうが、^{しびん} 洩瓶というオシッコを入れておく瓶です。でも焼き物としては、黄瀬戸の釉薬が使われ、結構良い物です。大切に使われたので、裏面には名前らしき墨書もみられます。用途を知らなければ、江戸時代の「黄瀬戸 瓶」として床の間に飾れるかも知れません。



紅皿・漱ぎ皿



中国製大皿



灯りの道具



洩瓶

ほうろく
炮烙といひます。現在で言うとは炒り専用のフライパンといったところでしょうか。豆などを炒るのに使ひます。今では節分でも豆は買ひもの。家庭ではほとんど使われなくなりました。

いかがだったでしょうか？みなさんも一級品の「ガラクタ」を見て、私たちがご先祖の暮らしぶりに思ひをめぐらせてみませんか。

(やまおかくにあき：郷土文化室文化財担当)



炮烙

Information

■自然資料館からのお知らせ■

特別展「バッタ・コオロギ・キリギリス ～南大阪の直翅類昆虫たち～」

大阪南部には多種多様な自然環境が残され、数多くのバッタ、コオロギ、キリギリスなどが生息しています。これら直翅類昆虫が持つ様々な形や生態の魅力を紹介するとともに、大阪南部の主要な生息環境を取り上げ、それらが現在直面している問題にもスポットを当てた展示を行います。

- 会期：開催中～2009年2月11日（水・祝）
- 開館：午前10時～午後5時（入場は午後4時まで）
- 場所：自然資料館1階多目的ホール
- 休館日：毎週月曜日（祝日は開館）、12月29日～1月5日、1月13日、1月31日
- 入場料：大人400円（きしわだ自然友の会会員280円）、中学生以下無料
- 主催：岸和田市教育委員会きしわだ自然資料館
- 協力：日本直翅類学会ほか

ホネホネワークショップ・きしわだ

生物の体をかたちづくる、骨格とはどんなものかを知るためのお話と、骨格標本に関する実習を行います。

- 日時：2009年2月11日（日）13:30～16:00

- 対象・定員：生物に興味をもつ小学生以上30名（小学生は保護者同伴・幼児同伴不可）
- 場所：自然資料館1階ホール
- 持ち物：筆記用具・タッパーウェア（型どり標本の持ち帰り用）・ビニール手袋
- 申込：往復はがきか電子メール（携帯不可）で、参加者全員の〒番号・住所・氏名・年齢（小学生は学年）・電話番号を記入し、1月15日～1月26日（必着）で、自然資料館「ほねほね」係まで。申込者多数の場合は抽選。
- 講師：西澤真樹子氏（当館専門員）

■岸和田城の展示案内■

企画展「岸和田城下町のくらし ～発掘調査にみる暮らしの中の器たち～」

近年の発掘調査によって、岸和田城下町から唐津焼・伊万里焼・瀬戸焼など各地からもたらされた多様な陶磁器類が見つかっています。本展では、出土した陶磁器類から、江戸時代の城下町のくらしぶりをさぐります。

- 会期：開催中～2009年3月1日（日）
- 開館：午前10時～午後5時（入場は4時まで）
- 場所：岸和田城天守閣2階展示室

※お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願ひ申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL: (072) 423-8100 FAX: (072) 423-8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ URL:
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/sosiki/k-nature/>
Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)